

(報告) つくばチャレンジ2022において洛星高校のチーム「オリオン」が高校生初の確認走行区間突破を達成しました！

青少年創造性開発育成事業の助成をいただいている洛星高校ロボット研究部のメンバー4人のチーム；オリオンが作ったMINTAKA号が、つくばチャレンジ2022に参加し、試験走行において距離約280mの確認走行区間突破を果たしました。本走行では、ロボットのセンサーモジュールの一部として搭載したiPhoneが予期しないタイミングでバッテリー残量警告の作動をし、動作モジュールとのデータ通信が遮断され、約200mの走行でリタイヤとなりました。当大会の確認区間走行突破は高校生初で、一般の自律ロボットの大会でこれだけの成績を残せたエンジニアの卵が育ちましたこと、双葉電子記念財団さまに感謝申し上げます。

洛星中高ロボット研究部

洛星中高ロボット研究部

洛星中学高等学校ロボット研究部は、自律型ロボットの作製を趣旨とするクラブである。中学1年生から高校3年生まで約50名が活動しており、キットを用いずパーツから製作することをモットーとしている。中学1年で入部した新入生に対して約半年間、当クラブ独自の新人教育プログラムでロボット作製のための基本的な知識・技術を身に着けるようにしている。

つくばチャレンジとは

「つくばチャレンジ」は、2007年から毎年実施している、つくば市内の一般の人々が往来する遊歩道等の市街地で約2kmのコースを移動ロボットが自律走行する技術チャレンジです。人々が普段使っているあるがままの実環境（リアルワールド）における、自律走行技術の進歩を目的としています。研究者と地域が協力して行う、先端技術への挑戦と公開実験の場で、大学研究室、研究機関、企業、個人、学生サークル、社会人サークルなどから、おおむね毎年50以上のチームが参加しています。参加チームの技術は年々向上し、この活動は学術的にも大いに評価されています。

スタート前の緊張感



自律走行の様子

